

滋賀らしい「水素社会づくり」の推進に向けた方向性（概要）

■ 背景・趣旨

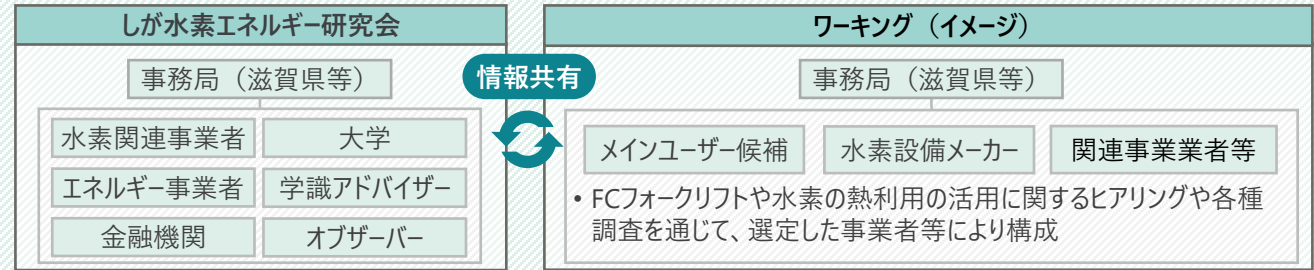
- 令和3年に閣議決定された「第6次エネルギー基本計画」において水素の資源としての位置付けが明確化され、水素の利活用拡大に向けた各種ロードマップの整備が進められている。
- 滋賀県では令和4年に施行した「滋賀県CO2ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例」において水素エネルギーの利用促進を位置付けており、本県のポテンシャルを活かした水素エネルギーの利活用拡大への取組を通じて、地域の持続的な発展をも実現する「CO2ネットゼロ社会づくり」を推進していく。

水素の利活用観点から整理した滋賀県のポテンシャル



■ 水素社会実現に向けた検討体制の構築

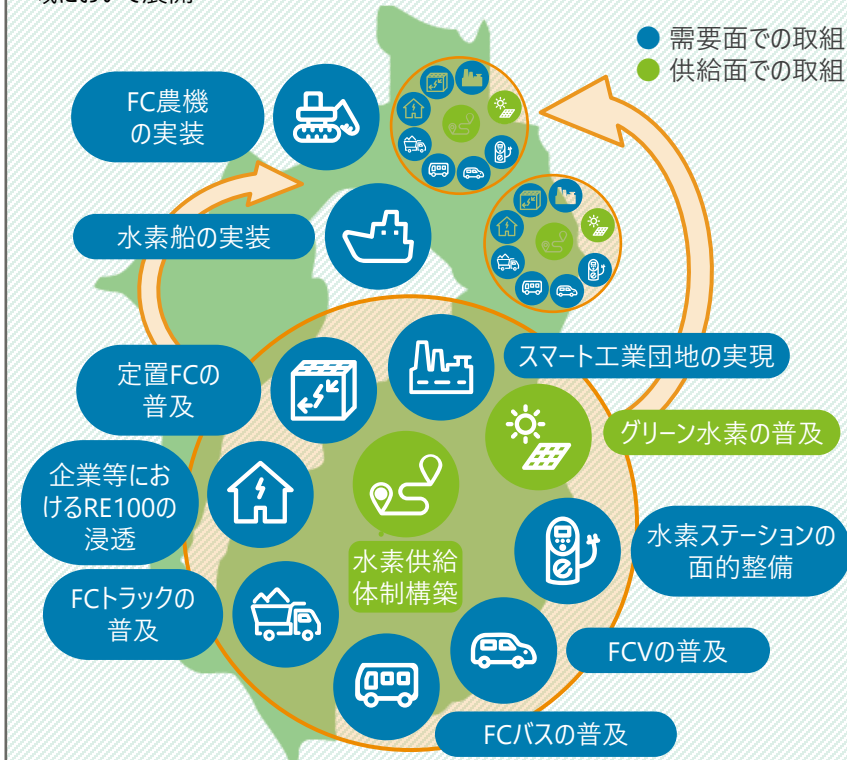
- プロジェクト組成に向け、これまでの「しが水素エネルギー研究会」での議論にて、供給やコスト面の課題解決の必要性を共有
- これを踏まえ、詳細検討を行うワーキングを組成し、議論を深めるとともに、協議体への発展も見据え、プロジェクト実現を目指す



プロジェクト実施に向けた協議体への発展

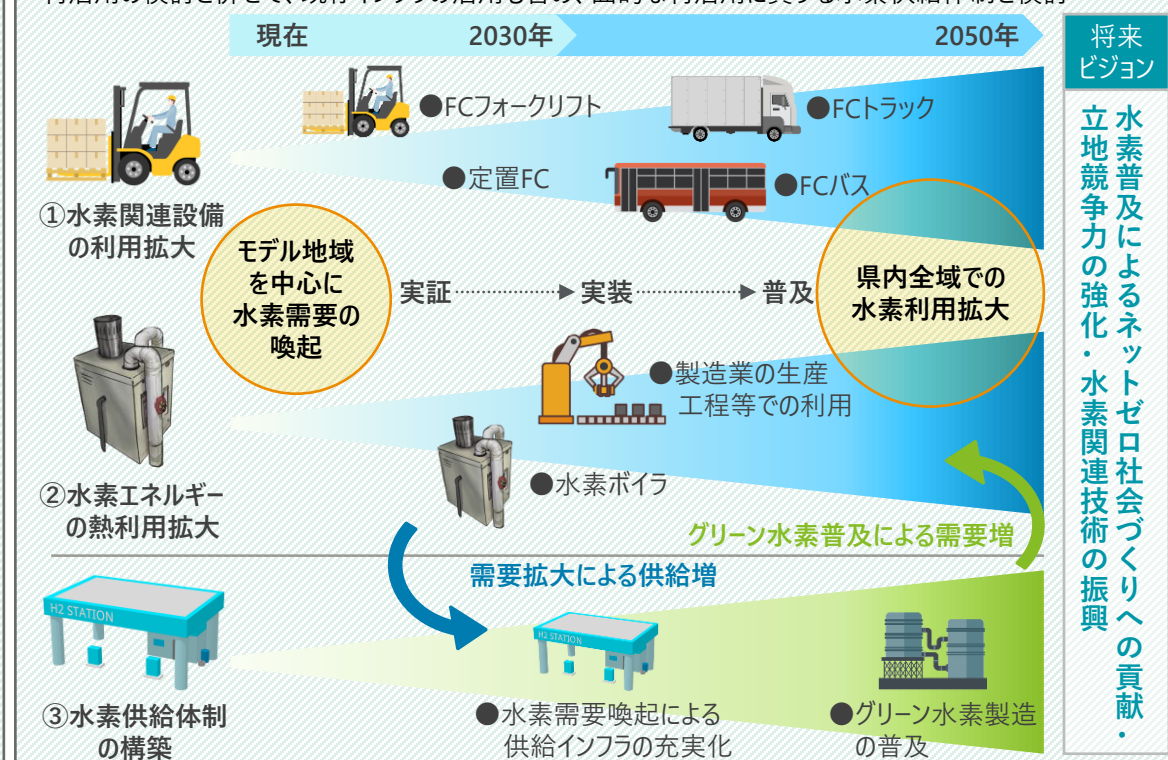
■ 目指すべき滋賀の水素社会の姿（2050年時点）

- 各地域の工場や物流拠点が集中する地域を中心に水素の利活用が県内全域において展開



■ 水素の利活用拡大に向けた取組の方向性

- 工場や物流拠点が集中する地域からモデル地域を選定し、水素関連設備の利活用の可能性を検討
- 利活用の検討と併せて、既存インフラの活用も含め、面的な利活用に資する水素供給体制を検討



将来ビジョン

水素普及によるネットゼロ社会づくりへの貢献・立地競争力の強化・水素関連技術の振興